会　議　記　録

会議名称	令和４年度　第１回文化財審議委員会
開催日時	令和４年６月 29 日（水）午後１時 50 分から午後３時 40 分まで
開催場所	加古川市役所新館８階　教育委員室
出 席 者	＜委員＞ 茂渡委員長、金子副委員長、岡田委員、上月委員、荘所委員、友久委員、藤原委員 ＜事務局＞ 教育指導部　桐山部長、杉本次長 文化財調査研究センター　河村所長、宮本副所長、山中係長、高下主査
会議次第	１　開会 委員長あいさつ 異動等による新しい職員の紹介 ２　議事 (1) 令和３年度文化財関係事業及び決算について（報告） (2) 令和４年度文化財関係事業及び予算について（報告） (3) 加古川市の文化財保護制度の整備に向けての意見交換 (4) 文化財事務及び調査に係る報告 (5) 指定文化財候補等に係る意見交換 (6) 今後の予定、事務連絡、その他 ３　閉会 副委員長あいさつ

議事内容

１　令和３年度文化財関係事業及び決算について（報告）

事務局から、令和３年度文化財関係事業及び令和３年度決算について報告があった。

委員から、意見は無かった。

２　令和４年度文化財関係事業及び予算について（報告）

事務局から、令和４年度文化財関係事業及び令和４年度予算について報告があった。

委員から、意見は無かった。

３　加古川市の文化財保護制度の整備に向けての意見交換

事務局から、以下の課題の提示があり、意見交換を行った。

(1) 登録文化財制度の検討

事務局から、文化財保護法の改正で令和４年４月から地方登録制度の創設が制度化されたこと、また、市で制度化するためには地方公共団体の条例で規定する必要があることの説明があった。

委員から、国登録文化財の所有者による管理が適切に行われていない例をあげ、

指定文化財制度の趣旨を尊重してほしい、市条例を改正する場合、その中に「文化財保護制度の趣旨を尊重してほしい。」のような文言を入れたらどうか、という意見があった。

委員から、文化財に対する意識づけのきっかけになるので推進してほしい、という意見があった。

委員から、粛々と準備を進めておくしかない、という意見があった。

この委員会として、①登録文化財制度の整備が必要である。②登録文化財制度の周知徹底が必要である。ということをまとめとした。

(2) 指定文化財修理等事業に対する補助制度の整備

事務局から、現在の市条例には市指定文化財の修理等に対して補助金交付の規定があるが、国・県指定文化財に対しては規定がないため、別に補助金交付要綱を制定して対応しているが、この要綱は３年の時限が定められており、その都度要綱を制定する必要があり継続が難しい場合があるなど不都合がある。このような課題に対応するためにも市条例改正が必要であると考えていることの説明があった。

委員から、指定文化財制度は、所有者などの関係者だけのものではないので、みんなのものという意識で客観的な押上げをすべきでないか、という意見があった。

この委員会として、必要に応じてすぐに対応できるよう文化財補助金制度の整備を急ぐ、ということをまとめとした。

(3) 文化財保存活用地域計画作成の検討

事務局から、平成 31 年３月に加古川市歴史文化基本構想を作成したが、今後さらに具体的な取組みを進めていくためのアクションプランが必要と考えている。この計画は、文化庁長官の認定を目標とするものであり、具体的な計画には財政面の裏付けが必要なため、どこまで目指すのか方向性を確定したい、という説明があった。

委員から、人が動かないと活性化しないという観光協会の取組みを参考に、食（グルメ）と遺跡を盛り込んだもの（イベント)、別府地域などでを実施してはどうか、という意見があった。

委員から、経費捻出の手段としてクラウドファンディングなどの検討、NPO 法人を行政がバックアップすること、また、ふるさと納税制度の活用などが手掛かりになる、という意見があった。

委員から、歴史文化基本構想策定時のアンケートの中にいろいろなアイデアが出ていたと思う、という意見があった。

委員から、昔のまちづくり懇談会で史跡見学会などを行って好評であった。史跡を主に観光利用のものと考えることには疑問があるが、知ってもらわないと保存に繋がらない、という意見があった。

委員から、エリアのコンテンツということから賀古駅家跡や教信寺を含む野口エリアを推薦する意見があり、まず地元の人に理解してもらうことが必要である、という意見があった。

委員から、ウォーキングとグルメのイベントが関心を高める効果があるという、意見があった。

委員から、京都で開催しているような逸品の特別公開などは人が集まりやすい、という意見があった。

4　文化財事務及び調査に係る報告

(1) 市指定文化財事務に係る報告

事務局から以下（ア及びイ）の事務処理の報告があった。

委員から特に意見は無かった。

ア　答申を受けた「木造金剛界大日如来坐像　1躯」（報恩寺）について、令和4年3月10日の定例教育委員会議において市指定文化財の指定を受けた。

イ　令和3年度に大阪及び東京で開催した特別展に、市指定文化財「聖徳太子坐像及び二王子立像」出展のため、令和3年8月24日から令和4年2月28日まで所在場所変更があった。

(2) 国・県指定文化財等に係る報告

事務局から以下（ア及びイ）の事務処理の報告があった。

委員から関連して鶴林寺の慈恵大師画像が、「比叡山最澄と天台宗の全て」展に出品されたことの情報提供があった。その他に特に意見は無かった。

ア　鶴林寺鐘楼の袴腰と瓦屋根、護摩堂の瓦屋根の修理事業が、国庫補助事業として令和4年6月1日から開始。令和5年度までの事業。

イ　令和3年度に大阪及び東京で開催した特別展に、重要文化財「絹本著色聖徳太子像」、「絹本著色聖徳太子絵伝」、「木造椽漆厨子」、県指定文化財「木造聖徳太子立像」出展のため、令和3年8月24日から令和4年2月28日まで所在場所変更があった。

(3) 埋蔵文化財発掘調査（本発掘調査）に係る報告

事務局から以下（ア及びイ）の埋蔵文化財本発掘調理の報告があった。

委員から特に意見は無かった。

ア　美乃利遺跡本発掘調査

調査面積　495㎡

時代　弥生～中世

調査期間　令和4年3月28日～7月29日（予定）

概要　数多くの溝が発見されているが、調査現場が別府川の近くということもあり、自然にできた溝か人工的な溝か整理作業が必要。

イ　岸城跡本発掘調査

調査面積　約530㎡

調査期間　令和4年5月13日～6月10日

遺構　掘立柱建物跡、溝状遺構など中世中心のものが少量

遺物　土師器、須恵器などが少量

概要　岸城跡は室町時代の城館跡として登録されているが、発掘調査をした感じでは城跡というより農村集落である。また、岸城は文献に出てこない城である。当時の文化財担当者に確認したところ、分布調査で遺跡であることを確認し、周辺の地形から城跡と判断したとのこと。報告書作成の際に、名称変更、内容変更を検討する。

(4) その他の報告

事務局から以下（アからエまで）の事務等の報告があった。

委員から特に意見は無かった。

ア　中道子山城跡のアンテナ撤去工事について

平成２８年度に設置した中道子山城跡の「V-Low マルチメディア放送用鉄塔・放送設備局舎」が、令和４年～6･7 月に撤去することになったため、工事立会を行っている。

イ　文化財刊行物に係る報告

・「加古川市遺跡分布地図（第４版）」令和４年３月 25 日刊行
・「加古川市文化財年報第５号（令和元年度）」令和４年３月 31 日刊行
・「文化財ニュース６５号」令和４年３月 31 日刊行
・「文化財解説シート２９－３２号」令和４年３月 31 日刊行

ウ　埋蔵文化財発掘調査報告書等の刊行予定についての説明

・「令和元年度民間開発（店舗建設）に伴う坂元遺跡本発掘調査」令和４年６月 30 日刊行予定
・「令和 1-4 年度中津水足線外１線道路改良事業に伴う美乃利遺跡埋蔵文化財本発掘調査」令和６年３月刊行予定
・「令和２年度雁戸井地区ほ場整備事業に伴う西田池南遺跡本発掘調査」及び「令和４年度雁戸井地区ほ場整備事業に伴う広畑遺跡本発掘調査」令和７年３月刊行予定
・「令和３年度雁戸井地区ほ場整備事業に伴う上村池遺跡本発掘調査」及び「令和４年度雁戸井地区ほ場整備事業に伴う上村池遺跡本発掘調査」令和７年３月刊行予定
・「令和４年度民間開発（宅地開発）に伴う岸城跡本発掘調査」令和５年 12 月刊行予定
・「有形文化財調査集報」令和５年３月刊行予定

(5) 指定文化財候補等に係る意見交換

事務局から、委員に今年度の指定文化財候補の推薦を確認した。

委員から、具体的な候補は挙がらなかった。

事務局から、委員からの推薦候補がある場合は、次回の会議までに、事務局に連絡してほしいことの伝達があった。

その他、委員から、市指定文化財「銅鐘」（円照寺所蔵）と同じ作者の銅鐘が沖縄県では国の重要文化財になっていることなどの情報交換があった。

委員から、東播磨地域懇話会が、50 年以上前に発掘調査された西条古墳群のうち、未整理の遺物を整理し、報告書を刊行する作業を進めているという情報提供があった。

(6) 今後の予定、事務連絡、その他

事務局から、10 月後半ごろに第２回文化財審議委員会を開催予定であることなど今後の予定について説明があった。。